

## 令和5年度事業計画

### 【学術・投稿論文】

担当理事 箕浦 博之

#### 1) 研修会の開催

- ① 原則的に毎月1回の割合で津市に於いて母体保護法指定医研修会と日本産科婦人科学会専門医研修会を兼ねた研修会を開催する。
- ② 上記以外に、上野・名張地区、伊勢・志摩地区、北勢地区、紀南地区など地域での研修会も適宜行う。

#### 2) 学術論文の募集と審査

- ① 三重県産婦人科医会会員から学術論文の募集を行う。
- ② 医報掲載論文は、順調に毎年5編前後の投稿があり、今後も三重県産婦人科医報を論文発表の場の一つとして是非活用していただきたい。
- ③ 論文は、3名の編集委員・学術委員により査読が行われており、三重県の産婦人科の発展に少しでも寄与すると判断されれば、できるだけ掲載する方針で編集しています。

#### 3) その他の事業

- ① 三重県の産婦人科医療の向上と産婦人科医療提供体制の充実に必要な事業を実施または後援する。

### 【母子保健】

担当理事 前川 有香

- 1) 胎動チェックのおかげで常位胎盤早期剥離や胎児機能不全の早期発見・児救命につながる症例があります。引き続き、スマートフォンのアプリ「Babyプラス」を使用した胎動チェックを勧めて頂きますようお願い致します。
- 2) COVID-19 流行のため開催中止となっておりました新生児蘇生法(NCPR)講習会・日本母体救命システム普及協議会(J-CIMELS)の母体救命コースともに、開催が再開されておりますので、ご参加下さい。
- 3) 産婦健康診査事業では、産後2週間・1ヶ月健診時にEPDSの実施や市町への情報提供が必要ですが、産後のメンタルヘルス向上と児童虐待防止のため、適正な実施をお願い致します。
- 4) 「母と子のメンタルヘルスフォーラム」全国大会が、2023年6月4日に三重県四日市市で開催されます。妊産婦のメンタルヘルスケアについてのアンケートにご協力頂き、誠にありがとうございました。集計結果はフォーラムで発表させていただきます。会場とWEBのハイブリッド開催ですが、お近くの方は是非会場にお越し下さい。
- 5) 「みえ出産前後からの親子支援事業」の対象は「妊娠22週から産後16週」の育児不安のある妊産婦さんに加え、胎児異常や早産リスクが高い症例に同一医療機関内のNICU医師が出生前訪問を行った場合も利用可能です。1件あたり産科は4,000円・小児科は6,000円の相談料が支払われます。精神科への緊急時の紹介システムもありますので、御活用下さい。

## 【医療保険】

担当理事 西村 公宏

1) 令和4年度の診療報酬改定で不妊治療が保険適応となって1年が経過しました。厚生労働省が示した医療保険移行に関する解説集と疑義への問答集を活用して運用しています。使用可能な薬剤が限定されていることや、必要な手技等が保険収載されていないなど当初は多少の混乱がありました。自費診療であった時期は患者さんとの同意の上で柔軟にコストの請求が可能でした。現在は混合診療との関係で容易には請求できない状態です。令和6年に診療報酬の改定がありますので、前回の改定で採用されなかった手技の保険収載を要望します。

産婦人科診療に関しては改定に向け、婦人科特定疾患治療管理料の適応拡大、産婦人科診療全般の診療報酬増点等を要望します。

2) 診療報酬改定の内容、全国医療保険担当者連絡会や東海社保協議会の協議内容をすみやかに会員に連絡するように努めます。

## 【医療安全対策】

担当理事 菊川 東洋

1) 最新の各診療ガイドラインに沿った診療・治療をしていただくように周知する。

2) 偶発事例報告は適宜報告して頂く。

3) 常位胎盤早期剥離、22週以降の子宮内胎児死亡例の症例は、毎月の報告をお願いする。

4) NCPR、J-MELSの参加を勧める。

## 【献金】

担当理事 菊川 東洋

1) 一般社会への‘おぎゃー献金’活動の周知と協力依頼。

2) 出産された産婦さん及び御家族への協力依頼。

3) ㈱伊藤園、その他の献金チャリティー自販機の設置拡大。

4) 分娩を扱っていない会員にも協力を依頼する。

## 【医業推進】

担当理事 菊川 東洋

1) 周産期に関しては、有床診療所と周産期母子センターが周産期ネットワーク等で相互に連携し、分娩リスクに応じた医療が提供される体制やシステムを作り、どの地域でも安全に分娩を行えるようにする。

2) がん検診受診率を向上させるため、産婦人科医が市民公開講座等積極的に参加し、がん検診の有用性を啓蒙することとHPV併用検診への公費補助を自治体へ要望する。

3) HPVワクチンに関する適切な情報提供とHPVワクチン接種の推進を行う。

4) 性教育を充実し、若年者に正しい性知識を伝える機会を増やしていく。

## 【広報】

担当理事 箕浦 博之

1) 毎年1回の三重県産婦人科医報を4月初めに刊行する。

2) 会員の自由投稿、論文発表をできるだけお願いしたい。

### 【女性医師関係】

担当理事 神元 有紀

- 1) 女性医師の数は増えてきており、育児中の医師も増えてきている。育児中の場合、日勤・外来のみの仕事になってしまうことも多い。このため、県下の女性勤務医師の現状を把握し、個々に合った勤務形態・勤務場所を提案したい。
- 2) 女性医師が既婚・未婚に関係なく、それぞれの希望の分野で活躍できるように相談に応じたい。また彼女たちの勤務環境を整えるよう働きかけていきたい。

### 【癌対策】

担当理事 近藤 英司

本邦の子宮頸癌がん検診率は20~69歳を対象としたデータでは43.7%(2019年)であり、諸外国の報告(アメリカ82.4%(2018年)、ドイツ80.4%(2014年)、イギリス75.4%(2017年))に比べかなり低いのが現状であるため改善が必要である。また令和4年からHPVワクチンの積極的勧奨がようやく再開し、さらに令和5年から9価のHPVワクチンが接種可能となるため接種率向上のために尽力したい。

### 【勤務医】

担当理事 長尾 賢治

- 1) 勤務医の本会行事への参加および入会促進  
本会行事の広報活動を活発化し、勤務医の本会行事への参加を促進し、さらに本会の加入を促進する。
- 2) 持続可能な産婦人科医療に向けた活動  
三重県産婦人科学教室同門会と共同して、勤務医待遇改善、子育て女性医師支援、研修体制の整備等による産婦人科専攻医の増加、継続就労率の上昇を図るとともに、医療機関の機能分化と連携強化による持続可能で安定的な産婦人科医療提供に向けた活動を行う。
- 3) 各種専門医制度・技術認定医制度への対応  
各種専門医制度・技術認定医制度に基づく研修医制度および専門医の更新に関する情報を周知し、会員が円滑に対応できるよう広報活動を行う。

### 【先天異常・感染症対策】

担当理事 前川 有香

- 1) 胎児形態異常:多くの症例を病診連携でご紹介頂いております。「診断には至らないが、気になるところがある」という場合も、基幹病院にご相談下さい。
- 2) 新型コロナウイルス感染症:4月初めの時点では感染者は減少しておりますが、AIの予測では4月下旬から再度感染者が増加するとされています。今後の感染者の推移と流行株の特徴について情報収集し、必要時にお知らせ致します。2類から5類感染症に変更された場合も、オミクロン株と同様の感染力が維持されるなら、分娩時の感染対策はこれまで通り必要と考えます。分娩の近い方は特に注意して頂くよう患者教育をお願い致します。また、感染者の全数把握は不要となりましたが、妊婦の感染者は報告が必要ですので、自施設で陽性者が出た場合には、市町の保健所と三重大学産婦人科の真川医師にご連絡下さい。
- 3) サイトメガロウイルス(CMV):妊婦スクリーニングは、臨床研究としても大きな成果を上げております。今後は新生児の尿検査を行っていく予定ですが、引き続き御協力下さい。
- 4) HTLV-1 母子感染予防対策:スクリーニング陽性者の確認検査として、ウエスタンブ

ロット(WB)法またはラインロット(LIA)法のいずれかを行って頂くよう推奨されており、ラインロット法は判定保留が少ないとされています。また、陽性妊婦から出生した児のフォローは、親子支援事業を利用して小児科へのご紹介をお願い致します。また、児の確認検査を確実にを行うために、陽性者の母子手帳に貼付するシールを作成しております。年に1回のアンケート依頼時に各施設に送付させていただきますので、ご活用下さい。

## 【性教育】

担当理事 金丸 恵子

H22年に開催された性教育指導セミナー全国大会をきっかけに教育・行政・警察やNPOチャイルドヘルプラインなどとの横のつながりを深める活動を継続してきました。昨年度も2月に県の依頼を得て第12回思春期保健指導セミナーを開催・発信しました。当日会場参加とオンデマンドあわせて約240名のかたが視聴されました。今年度も開催をめざします。

三重県子ども・福祉部からの委託でライフプランのための教材として中学生向け、高校生以上向けのパンフレット、思春期世代対象のウェブサイト「知りたい！ココロとカラダのQ&A」の監修に携わってきました。中学高校以外にも県内の大学や企業の社員向けに講師派遣を行っています。

性教育に携わる教育関係・行政関係の方たちにも参加していただく懇話会を年に3-4回持つ予定です。担当委員の先生がた以外にもご参加いただける先生はご連絡ください。

(kanamaru57925@zb.ztv.ne.jp)

学校現場への講師派遣については需要も増しており年間60-70校に実績があります。依頼のあった学校や企業には全て応じていきたいと考えます。聞き手の生徒の様子に応じて適切な言葉の選択・内容が求められます。もし依頼されたがご自分の都合がつかない学校がございましたら医会事務局へ連絡ください。また講義用のスライドの提供もできます。講義先で気づいたことや新しい情報などはお知らせいただき共有したい。行かれた学校名などを年度末にご報告ください。定期接種である中高生へのHPVワクチンの意義・子宮頸がん予防についての正しい理解の啓蒙活動を継続し、キャッチアップ接種・9価ワクチンの紹介も含めワクチン接種を推奨していきたい。月経困難症について10代から婦人科医がかかわる重要性を学校現場や親たちへ情報提供していきたい。

## 【不妊】

担当理事 箕浦 博之

2022年4月1日から体外受精一胚移植が保険適応化され、ご夫婦が体外受精一胚移植を治療法として選択することが比較的容易になった。しかし、準備が不十分であるまま制度が開始されている面もあり、ルールの解釈をめぐる現場が混乱している。解釈の曖昧さが萎縮診療に繋がり、本来保険診療として実施可能な診療が自費診療として施行される様な事は避けるべきである。県内のART施設と保険審査を担当する医師が、情報と問題点を共有する場を設定し、体外受精一胚移植の保険診療が適切に運用されるように努力する。

三重大学医学部高度生殖医療センターを中心として、生殖医療に携わる医療機関が連携し、不妊症や不育症に悩むご夫婦に最新の技術を提供する体制の構築に協力する。

**【専門医制度】**

担当理事 池田 智明

- 1) 学術委員会の研修会、学術講演会開催方針に則って、専門医認定および更新のための研修会を開催する。
- 2) 専攻医の生涯研修のための研修会を開催する。
- 3) 上記研修会の出席証明を JSOG カードを用いて認定する。
- 4) 専門医新規申請者、更新者および施設新規認定、更新などの申請にかかる 1 次審査を行う。